

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

今回、高校生の大会（団体戦）で、審判の判定区分と再判定、またポイントカウントの訂正で起きたトラブルについて、両校の監督が判定の再確認を行い最終的に大会本部の判定が出ましたが、ハンドブックの規定とは違った解釈の判定だったと感じましたので、ご指導頂きたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

状況としては、7ゲームのファイナルゲーム3-3の次のプレーにおいて、Aペアの後衛の打ったボールが副審側のサイドにアウトし、副審が手を上げてアウトのサインをしましたが、正審のプレー停止の「アウト」のコールがなく、ラリーは続き、Bペアの生徒の打ったボールがベースラインをアウトし、正審がアウトの判定を出しました。この直後に、Bペアの選手が正審に対し、先にAペアのサイドのアウトの件を質問したところ、副審もサイドのアウトが先であったことをジェスチャーで正審に伝え、その後次のプレーに入りました。

その後、Bペアが2ポイント取り、6-3となっているはずが、正審は5-4とコールし、またも、ポイントカウントが違うとのことで、試合が中断となりました（正審の発声が小さく聞き取りづらい状況であったため、途中ポイントカウントの誤りに気づいていなかったと思われます）。そこで、選手・顧問が正審にどの時点でカウントが変わったのか確認した結果、3-3の次のポイントでのラリーでAペアがサイドにアウトした件について、正審の判断は、サイドのアウトは失ポイントとせず、そのラリー後半に起きたBペアのベースラインのアウトを採用し失ポイントとしたとのことでした。

Aの監督は、サイドのアウトの直後に、ラリーを停止しなかったことが、サイドのアウトではないことをBペアが認めた事となるので、その後に起きたベースラインのアウトが失ポイントと判定されたのは仕方がない。ラリーを停止せず続けてしまったBペアの方が悪いと説明してきました。

この状況を見ていた私の見解としては、3-3の次のポイントカウントでは、先にAペアのサイドのアウトであるため、副審の判定区分（審判規則：8条）で、副審の判定が優先であること。次に、判定の再確認については、プレーの直後にサイドのアウトが先であるということ副審から正審に告げているため、再判定（審判規則：14条）は、すでに完了している。その後ポイントカウントが6-3であったはずが、5-4となってしまった件に関しては、理由を確認したところ、正審が副審の判定を却下し、正審のジャッジを優先したとのことでしたが、これは副審の判定区分を正審が判定したとなると、他のアンパイヤーの判定区分の権限を犯したこととなり（審判規則：7条）、また、ポイントカウントの訂正はそのゲーム内であれば訂正出来るはずだと思います。ところが、大会本部の判定は、3-3の次のポイントカウントについて、先に起きた相手側のサイドのアウトを失ポイントとせず、その次に起きたBペアのベースラインのアウトを失ポイントとし、正審の判定と同じ判定結果を下しました。

この結果について、正しい判定はどうかであればよかったのか、ご指導のほど宜しくお願い致します。

Answer.....

- ・インプレーにおいて、正・副・線審のいずれかのアンパイヤーがインプレーを停止するサイン又はコールをした場合は、直ちにプレーを中断させ、協議する。
- ・ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に訂正を行うものとする。

結論から申し上げますと、大会本部の判定はファイナルゲーム中ですので審判規則の第14条（再判定）[解説25]の2、ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に訂正できますので副審の判定を正審が無視したことに始まり、間違った判定を下したことになると思われます。

それでは手順に従って説明しましょう。副審がAペアのサイドのアウトのサインをした件についてBペアから質問をしています。まず、ここで正審は副審がアウトのサインをした時にプレーを止めなければなりません（審判規則第16条プレーの停止）でした。ところが、副審のサインを見落としプレーを

続けさせBペアの打ったボールがベースラインを越えた時アウトと判定しています。ここでの質問に対し、副審は先ほどのサイドのアウトを正審にゼスチャーで伝えていますが、どうしたことか結果的に正審はこれを聞き入れていません。副審と正審の判定が食い違っていますので何故副審と協議しなかったのでしょうか。ここに誤りがあります。次に、ここでA監督はサイドのアウトの判定の後ラリーを停止しなかったことが、Bペアがサイドのアウトではないことを認め、その後に起きたベースラインを越えたアウトは仕方なくBペアの方が悪いと説明していますが、これはフェアではありませんね。このポイン

トが最後まで引きずって、ゲーム内のポイントカウントの誤りを訂正しないで進めたことに問題があります（審判規則14条再判定、質問があった場合は、内容を確認の上、再度判定の結果を正審から通告する。〔解説25〕の2）。ポイントの判定を訂正するのではなく、ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に再判定を行うことが出来ます。ポイントカウントが6-3になるはずが5-4となった件は、正審が副審の判定を却下し、正審の判定を優先したことです。ここにも誤った解釈が見受けられます《審判規則第6条（アンパイヤーの任務）2、…他のアンパイヤーのサイン及びコールを確認した後、これを尊重して明確にコールし、採点票に記録する》。以上の結果、競技規則・審判規則の解釈に誤りがあったからポイントカウントに誤りが生じ

たといえましょう。この度の判定は、大会本部が決定していますが、今回の様な時にレフェリーがしっかりハンドブックを理解し誤った解釈をしないように、また手順を追ってアンパイヤーと協議の上、判定を下すように任務を全うしましょう。

【関連規則】

競技規則第43条（提訴）、解説19

審判規則第6条（アンパイヤーの任務）2、第7条（アンパイヤーの心得）（1）、（3）ク、第14条（再判定）解説25、第15条（判定の誤り）、第16条（プレーの停止）

ジュニア審判マニュアル

競技規則について

15. アンパイヤーの判定に異議がある場合はどうしたらよいか？

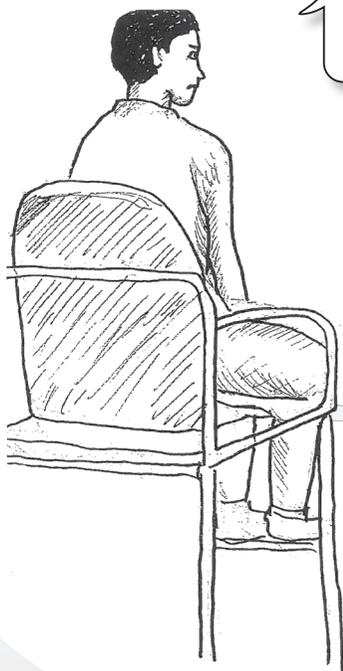
審判規則について

1. アンパイヤーの任務と心得

6. 判定を間違えたときは？（判定の誤り）

5. プレーヤーから質問があったときは？（再判定）

7. 間違ってインプレーを止めさせるサインまたはコールをしたら？（プレーの停止）



インのように見えるが副審がアウトのサインを出しているから直ちに止めて確認してもらおう。

